

慶應義塾大学出版会

イチ押し

2022 年 4 月 新刊のご案内

社会学／精神医学 ご担当者さま

「死にたい」とつぶやく (仮)

座間 9 遺体事件後に失踪の社会学者が考えたこと (2022 年 4 月下旬刊行予定)

中森弘樹 (立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科准教授) [著]

四六判並製／304 頁 税込予価 1,980 円 ISBN978-4-7664-2818-6 C0036

 ココに注目！

- ・ SNS に溢れかえる「死にたい」の言葉——。
- ・ 私たちは、「死にたい」と言動する人たちといかに向き合えばよいのか？
- ・ 座間 9 遺体事件を発端として、気鋭の社会学者が「死にたい」を読み解く。

2017 年、日本中に大きな衝撃を与えた「座間 9 遺体事件」。この事件は、その特徴として被害者の多くが Twitter 上で「死にたい」とつぶやいていたこともクローズアップされた。本書では、事件の概要・背景の考察を進めるとともに、こうした「死にたい」と言動する人々に対して、日本社会がいかに向きあうべきかを、気鋭の社会学者が「親密圏」をキーワードに読み解いていく。

対象 一般 (現代社会問題に関心の高い層)

類書 東畑開人『居るのはつらいよ』(医学書院)

営業部からのおすすめポイント

「死にたい」ということ、いわゆる希死念慮をテーマとした書籍は、『もしも「死にたい」と言われたら』(中外医学社) など精神医学の分野で数多く刊行されているかと思えます。本書とこれらの既刊書の違いとしては、「死にたい」と言動する人たちに対し「個人」としてどう対応すべきか」だけでなく、「社会」としてどう彼 / 彼女たちと向き合うべきか、居場所を確保するのか」を考える点にあります。 (乙子)

 **主要目次、注文書、著者既刊を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！**

【主要目次】

はじめに

第1章 救済の悪用?——座間9遺体事件と「死にたい」をめぐる省察

- 1 事件への問い
- 2 研究の方法と倫理的配慮
- 3 事件の肖像
- 4 「私がしたことは殺人です」
- 5 「死にたい」をめぐる省察
- 6 救済の悪用

第2章 「死にたい」の海へ——Twitterで「死にたい」とつぶやく者たち

- 1 「死にたい」の海へ
- 2 「死にたい」はウェブサイトからTwitterへ
- 3 研究の方法
- 4 「死にたい」はTwitterでどのように語られているのか
- 5 「死にたい」とつぶやくユーザーのプロフィール分析
- 6 私だけのアジール

第3章 「死にたい」をシェアする暮らし——「一時的な居場所」としてのシェアハウス

- 1 シェアハウスの可能性
- 2 シェアハウスをぶらぶらする
- 3 互いの生／生命に配慮しあう死にたがりたち——シェアハウスAについて
- 4 人が死なないシェアハウス——シェアハウスBについて
- 5 一時的な居場所としてのシェアハウス

終章 「死にたい」はコミュニケーションである——居場所探しのその前に



ご注文はFAXで! 03-3451-3124



番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
新刊委託		中森弘樹 著 「死にたい」とつぶやく(仮) 一座間9遺体事件後に失踪の社会学者が考えたこと ISBN978-4-7664-2818-6 C0036	1,980 円	★★★★★ ★★

★1つで「500部」を表します

【著者既刊のご紹介】

日本社会病理学会学術奨励賞（出版奨励賞）、日本社会学会第17回奨励賞を受賞しました。

番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	定価（税込）
返品条件付注文品		中森弘樹 著 失踪の社会学 一親密性と責任をめぐる試論 ISBN978-4-7664-2481-2 C3036	4,620 円